全国大学書道学会
会報
12
平成26年（2014）
3月31日発行
全国大学書道学会

ご挨拶

理事長　平形精一

平成二十五年度の本学会は、初日の日本教育大学協会全国書道教育部門会と三日目の全国大学書写書道教育学会に挟まれた十月五日、私の郷里、前橋市の群馬大学教育学部を会場に開催されました。関東地区では一昨年の茨城大会に続きますが、当大学では初めてで、永由徳夫先生の絶大な御尽力によって実現をみたものです。先生を敬慕する大勢の学生のチームワークもよろしく、運営にあたられた関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。お茶コーナーに描かれた『上毛カルタ』の数々は私の少年期を懐古するのに十分で、会員への「お・も・て・な・し」の心が随所に溢れていました。

学会のメインである研究発表には八件、投稿には二件の応募があり、紀要掲載にあたっては査読委員の意見をふまえ慎重に審議いたしました。先行資料を的確に引用しながら創意あるテーマを論証する研究が大半でしたが、中には用語の概念規定が曖昧であったり、首尾が一貫しないものが見受けられました。不掲載の原稿には理由を附して返却いたしましたので、捲土重来を期していただければ幸いです。記念講演は同大学名誉教授・石田肇先生の御当地ならではの演題「群馬周辺の金石文」で、豊富な拓本をかかげながらの上毛三碑を中心とする解説は大好評でした。有難うございました。

本学会を特色つける「会員書作展」には永由先生の奔走のおかげで六十五点が集められました。「群僊閣」と題した近年では珍しい折帖形式で、全長十六メートルを越える〝平成の手鑑〟はまさに壮観でした。例年の半切には見られない多様な表現は、学生にとってもよき鑑賞教材となったことでしょう。

大会は以上のように盛況でしたが、開催直前の九月十九日、常任理事の鶴田一雄先生急逝の訃報が届きました。先生は伝統ある新潟大学書道科主任教授として、最近ではお会いする毎に、新課程「芸術環境創造課程」の行く末を案じられていました。当会でもいっそうの御活躍を期待していただけに、無念でなりません。ご冥福をお祈り申し上げます。

さて、本年は役員改選の年にあたり、理事会および総会で理事長他数名の改選が承認されました。思い起こせば私こと、八年前、現会長野中浩俊先生からの本学会役員への要請を受け、二年後からは理事長の大役を仰せつかり、今日までの六年間を大過なく送ることができました。当初敷居の高く感じられた役員会も、二次会の酒席を通して徐々に慣れ、総力を結集して念願の『書の古典と理論』を発刊するまでに到りました。力不足の私を支えて下さいました皆々様に厚く感謝申し上げる次第です。

一方、総会では書写書道教育の発展を期し、次期学習指導要領の改訂に向けて、書道界と教育界が「書写・書道教育推進協議会」を発足させるにあたり、本会も発起団体として参加することになったとの報告がありました。本会は目的を達成するために、紀要発行の他、諸問題の討議や関連する諸機構との連絡及び協力なども規約に謳われており、今後、協議会の動向を見守りながら機敏に対応していくことが求められるでしょう。

来年度の大会は大橋修一先生の御厚意で埼玉大学が予定されています。会員の一人でも多くの御参加を得て、大盛会となるよう祈念いたします。

研究発表

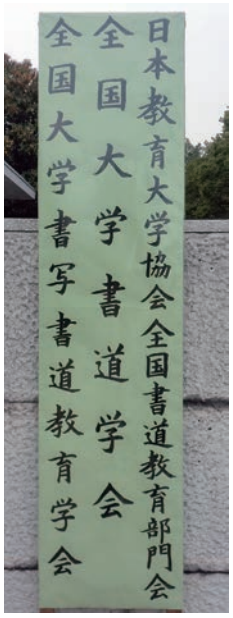
全国大学書道学会
平成二十五年度（群馬）大会を終えて

群馬大学　永由徳夫

平成二十五年十月五日（土）、群馬大学教育学部を会場に、全国大学書道学会が開催されました。ここに、群馬大会の様子を所感も交えながら報告致します。

大会参加者は七十四名（会員五十九名、準会員十五名）。総会開催後、八件の研究発表が行われましたが、いずれも斯学に寄与する充実した発表であり、白熱した討議がなされていたように思います。私事ながら、上智大学在学中にご指導賜った、本学会参与でかつて群馬大学でも教鞭を執られた加藤達成先生が、「群馬は第二のふるさと。必ず来年は伺いますから」と、昨年度、京都大会の折に仰られ、そのお約束を万難を排して果たしてくださればかりか、研究発表に対して質疑もなされる矍鑠たるお姿には、畏服するばかりでありました。

研究発表に引き続き、群馬大学名誉教授・石田肇氏による「群馬周辺の金石文」と題する記念講演が催されました。「多胡碑記」「前橋妙安寺鐘銘」「若舎人銘石櫃」等に関する詳密な解説とともに、多くの拓本が展示され、講演後も拓本を囲んで談論の輪ができるほどの活況を呈しました。ここ群馬の地は、大陸からの渡来人の影響か、堅牢な「石の文化」が根づいていることを、さらにこの「石の文化」は、拓本という「紙の質感」を媒介として今日まで伝え得ることを、私自身再認識させられた次第です。



十月四日（金）～六日（日）の書道三学会会期中、教育学部C―二〇四教室にて、「全国大学書道学会会員書作展」を併催致しました。本年は、手鑑「群僊閣」を制作致しましたが、六十五点に及ぶ多数の出品をいただき、全長一六・七メートルの長帖が完成しました。箱書及び外題は会長・野中吟雪先生、内題は理事長・平形精逸先生が、ご多用にも拘らず、快くご揮毫くださいました。裂は正絹を用い、絢爛の中にもスタイリッシュな帖に仕立てられましたのも、これ偏に、お力添えを賜りました皆様方のお蔭であります。尚、「群僊閣」の称は、東洋画のモチーフとして好まれる、仙人が一所に集う様を描いた「群仙図」に因み、多くの皆様が全国各地よりここ群馬にいらしてくださる慶事を重ね合わせた次第です。学生と議論しながら名称を決定したことも、今となっては良い思い出であります。片や常任理事であられた鶴田一雄先生急逝の報は、誠に心痛極まりないものでした。本帖所収の玉作「長樂」は、まさしく病を押しての渾身の一作であったであろうことに思いを致すと、只々ご鴻恩に深謝し、ご冥福を祈るばかりです。

至らぬ点が多く、また、足元不如意の地でありましたのに、多数の皆様にご来駕賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。皆様から頂戴した励ましの言葉を支えに、青息吐息の体ながら、何とか伝統の襷を途絶えさせずに済み、安堵しております。どちらかというと引っ込み思案な群馬ッ子達にも、温かなお声掛けをいただき、学生共々感激したことなど、拙文を物す今となっても、半年前の皆様からのご芳情が思い起こされ、改めて感謝の念が沸き起こってきます。最後になりますが、全国大学書道学会の益々の発展、ならびに次年度開催の埼玉大会が盛会でありますよう心より祈念致しております。

大会記念講演

追悼

鶴田逸亭氏の逝去を悼む

横田恭三

平成二十五年九月一九日、鶴田逸亭氏が六一歳で亡くなられた。八月末に体調不良で倒れてから三週間、アッという間の他界であった。病名は胃癌とのことだが、病状についてはご本人も全く気づいておらず、八月下旬には出張で上京するなど忙しく動き回っていらした。倒れた際に精密検査を受けてはじめて病状がわかったのだが、残念ながら、すでに手遅れの状態であった。

入院して一週間ほどした九月七日、西林悠介先生ご夫妻、俟清社事務局の濱田青城氏と私の四人でお見舞いに出かけた。鶴田夫人の話では、朦朧とした意識だから面会してもたぶん会話は出来ないだろうということだったが、病室で代わるがわる名前を呼ぶなどして声をかけたら、鶴田氏は少しだけ目を開け、絞り出すような声で二言三言答えてくれた。しかし、これが最期の別れになるとは誰が予想したであろう。

鶴田氏との出会いは学生時代にまで遡る。同じ大学の二年上の先輩であり、いろいろな場面で大変お世話になった。その性格は温厚で、いつもニコニコして何事もまじめに応対してくれた。大学院修士課程修了後、埼玉県立高校の教員になり、昭和六十年四月には新潟大学へ助手として赴任された。その後、専任講師、助教授と順調に昇格され、平成一五年には教授職に着かれた。この間、書道教員を目指す学生たちに対して、特に書道史や書論などの理論面の指導に当たられた。当時、野中吟雪教授の肝入りで書道科から『積水』、さらに院生・卒業生による『書叢』がそれぞれ定期的に刊行されたが、この発刊に当たり鶴田氏も大いに尽力された。

「春秋・戦国期の文字資料」に研究テーマの軸足を置き、中国の史跡を訪ねる旅を幾度となく実行したが、近年は、新潟大学同僚の科研メンバーとして、ロンドンやパリに足を運び、敦煌文書を調査されていた。

本学会においては、長らく常任理事として会の運営に深く関わり、会の発展に尽力されてきた。

あまりにも早すぎる逝去に、なんと申し上げてよいか、本当に言葉が見つからない。ここに鶴田逸亭氏の本学会への貢献に感謝しつつ、心からご冥福をお祈りしたい。

『書の古典と理論』経過報告

学会の総力を挙げ、平成二十五年三月に上梓した『書の古典と理論』は、大学の教育現場はもちろんのこと、高等学校教員や書愛好者など周辺の方々からも好評をいただき、たちまち同年七月に第二刷を発行しました。さらに平成二十六年三月には第三刷に至りました。第一刷は三五〇〇冊、第二刷は三〇〇〇冊、第三刷も三〇〇〇冊の印刷となりました。第二刷、第三刷を発行するにあたり、誤植や誤記を調査し修正しました。しかしそれでもなお見落としがあるかもしれません。

手前味噌な話になりますが、本書の優れた点は、類書にはない古典・理論・資料の三部構成で、わかりやすい解説とコラムに心掛け、それをオールカラー図版に仕立てたことでしょう。しかも書籍離れが著しい昨今の大学生を意識して廉価に抑えたことも功を奏したと思われます。廉価に設定できたのは執筆者と編集委員の無償の協力、それに出版社の斯学への理解があったからに他なりません。

こうしたことから第一刷目は印税がなく、第二刷目以降に五%の印税が発生する契約を交わしました。年に一度、売り上げ冊数に対して印税を計算し、それがそのまま学会の収入となります。

会員各位におかれましては本書を学生とともに活用したり、あるいは書愛好者など周辺の方々へ大いに喧伝したりして十分に活用いただけることを心より願っています。

（大学テキスト編集委員会）

全国大学書道学会　平成 25 年度（群馬）大会　次第

開 催 日　　平成 25 年 10 月 5 日（土）
会　　場　　群馬大学教育学部
開催大学　　群馬大学

● **9：00　受　　付**（参加費 会員 4,000 円　準会員〈大学院生〉2,000 円）

● **9：30 ～ 10：40　平成 25 年度総会／開会式**（C203 教室）　司　会：事務局

1．開会のことば	副理事長	横田　恭三（跡見学園女子大学）
2．開催大学あいさつ	群馬大学	永由　徳夫　先生
3．会長あいさつ		野中　浩俊（岐阜女子大学）
4．理事長あいさつ		平形　精一（常葉大学）
5．議事	議　長	神野　雄二（熊本大学）
1）平成 24 年度事業報告 →資料 1		石井　　健（東京学芸大学）
2）平成 24 年度決算報告 →資料 2		柿木原くみ（相模女子大学）
3）平成 24 年度監査報告		大橋　修一（埼玉大学）
4）平成 25 年度事業計画（案）→資料 3		石井　　健（東京学芸大学）
5）平成 25 年度予算（案）→資料 4		柿木原くみ（相模女子大学）
6）役員改選（案）について →資料 5		石井　　健（東京学芸大学）
7）その他		
6．その他		
1）学会誌について		鈴木　晴彦（日本大学）
2）『書の古典と理論』刊行について		横田　恭三（跡見学園女子大学）
3）「書写・書道教育に関する要望書」について →資料 6		平形　精一（常葉大学）
4）次年度開催大学あいさつ		大橋　修一（埼玉大学）
5）新入会員紹介 →資料 7		事務局
6）その他		
7．閉会のことば		小川　博章（淑徳大学）

● **10：50 ～ 12：30　研究発表　午前の部**

第１会場（C203 教室）　司　会：森上　洋光（四国大学）

10：50 ～ 11：20
中林梧竹について　―梧竹の渡清を中心に　　東京学芸大学大学院 修士課程２年　八尋　友惟

11：25 ～ 11：55
書の鑑賞について　―その理論と方法の考察を中心に―　　東京学芸大学大学院 修士課程２年　山下　由季

12：00 ～ 12：30
中橋徳五郎「毛筆廃止論」に対する書道界の抵抗　　鎌倉女子大学短期大学部専任講師　杉山　勇人

第２会場（C206 教室）　司　会：鈴木　晴彦（日本大学）

10：50 ～ 11：20
王鐸の書における米芾の影響について　　新潟大学大学院 修士課程１年　廣木　知佳

11：25 ～ 11：55
法隆寺印の字様の復元　　東京学芸大学准教授　石井　　健

12：00 ～ 12：30
良寛と會津八一・北大路魯山人　　新潟大学准教授　角田　勝久

● **12：20 ～ 13：10　昼　　食**

● **13：10 ～ 14：50　研究発表　午後の部**

第１会場（C204 教室）　司　会：小川　博章（淑徳大学）

13：30 ～ 14：00
平島公方足利義根と近世阿波の書道文化　　四国大学教授　太田　　剛

14：05 ～ 14：35
中国六世紀の墓誌銘の四言詩句に見られる字句と書風の伝承　　愛媛大学教授　東　　賢司

● **14：35 ～ 14：55　休　　憩**

《 三学会合同懇親会 》

● **18：00　三学会合同懇親会**

日　　時　　10 月 5 日（土）　18：00 ～ 20：00
場　　所　　群馬大学教育学部内　大学会館１階生協食堂「あらくさ」
会　　費　　4,000 円（大学院生は 2,000 円）
＊本年度から三学会合同懇親会冒頭に大会記念撮影を行うことになりました。

《 会員書作展 》
●日　　時　10月4日（金）～ 10月6日（日）
●会　　場　群馬大学教育学部C棟C 402 教室

《 理事会 》
●日　　時　10月4日（金） 18：30 ～ 20：30
●会　　場　前橋さくらホテル（3階宴会場）

《 総会資料 》

資料1　平成 24 年度事業報告　→　承認

（平成 24 年）	4月 29 日	高等学校書道教員免許対応テキスト編集委員会（日本大学）
	5月 13 日	常任理事会／高等学校書道教員免許対応テキスト編集委員会（跡見学園女子大学）
	5月 19 日	高等学校書道教員免許対応テキスト図版撮影（淑徳大学）
	6月中旬	平成 24 年度（京都）大会案内はがき作成・発送
	7月 10 日	平成 24 年度（京都）大会要項（第1次）、会員書作展出品要項、会員票、会費払込用紙 発送
	7月 27 日	平成 24 年度（京都）大会研究発表応募締切日
	7月 29 日	常任理事会〈平成 24 年度（京都）大会、発表者及び発表順、総会議事案、高等学校書道教員免許対応テキスト等 について〉
	8月　9日	常任理事会／三学会合同役員会（京都大会について）
	8月 10 日	平成 24 年度会員書作展作品送付締切日
	9月　3日	高等学校書道教員免許対応テキスト編集委員会（跡見学園女子大学）
	9月　8日	平成 24 年度（京都）大会第2次案内、会報、学会誌 等 発送
	10月　1日	学会誌論文投稿申込締切日
	10月6～8日	平成 24 年度会員書作展（京都教育大学／教育博物館・学びの森ミュージアム）
	10月　7日	理事会（京都大会、役割分担確認、総会議事検討）／三学会合同懇親会
	10月　8日	平成 24 年度（京都）大会（総会、研究発表、大会記念講演）
	11月 16 日	学会誌投稿論文受付締切日
	11月下旬～	学会誌投稿論文査読
（平成 25 年）	1月 14 日	常任理事会（査読結果確認及び学会誌の発行について）／テキスト編集委員会
	1月～3月	学会誌編集
	2月 16 日	テキスト編集委員会
	3月　9日	常任理事会／三学会合同役員会（京都大会反省、平成 25 年度大会について）
	3月 30 日	高等学校書道教員免許対応テキスト『書の古典と理論』（光村図書出版）刊行

資料2　平成 24 年度決算報告　→　承認

A：収入の部

1）平成 23 年度繰越金	2,021,327 円
2）平成 24 年度会費（189 名）	1,353,000 円
3）雑収入（預金利息）	201 円
4）京都大会参加費残金	14,798 円
合　計	3,389,326 円

B：支出の部

1）京都大会：運営費補助（講師謝礼含む）	150,000 円
2）幹事会費（会議費：56,718 円　交通費：119,160 円）	175,878 円
3）テキスト編集委員会費	196,540 円
4）通信費	64,870 円
5）印刷費（学会誌：262,500 円、会報：120,750 円）	383,250 円
6）事務費（消耗品費・会費払込手数料他）	60,997 円
7）予備費（お悔やみ1件）	21,367 円
合　計	1,052,902 円

（A）収入　　—　（B）支出　　＝　次年度繰越金
3,389,326 円　—　1,052,902 円　＝　2,336,424 円

上記の通り報告いたします。　平成 25 年 10 月 4 日　事務局会計担当　柿木原くみ ㊞
以上相違ありません。　平成 25 年 10 月 4 日　監　　査　大橋　修一 ㊞
同　岡本　直人 ㊞

資料3　平成 25 年度事業計画（案）→　承認

（平成 25 年）	6 月 20 日	平成 25 年度（群馬）大会、第 1 次案内、会員書作展出品要項、学会誌、会費払込用紙 発送
	7 月 19 日	平成 25 年度（群馬）大会研究発表応募締切日
	7 月 28 日	常任理事会〈平成 25 年度（群馬）大会、発表者及び発表順、総会議事案、等 について〉
	8 月 10 日	平成 25 年度会員書作展作品送付締切日
	9 月　5 日	書写・書道教育推進協議会（如水会館）
	9 月 14 日	平成 25 年度（群馬）大会 第 2 次案内、発表要旨集、等 発送
	9 月 25 日	学会誌論文投稿申込締切日
	10 月 4 ～ 6 日	平成 25 年度会員書作展（群馬大学教育学部）
	10 月　4 日	理事会（群馬大会、役割分担確認、総会議事検討）
	10 月　5 日	平成 25 年度（群馬）大会（総会、研究発表、大会記念講演）／三学会合同懇親会
	10 月 10 日	書写・書道教育推進協議会（八重洲富士屋ホテル）
	11 月 15 日	学会誌投稿論文受付締切日
	11 月下旬～	学会誌投稿論文査読
	12 月下旬	常任理事会（査読結果確認及び学会誌の発行について）
（平成 26 年）	1 月～ 3 月	学会誌編集
	3 月中旬	常任理事会／三学会合同役員会（群馬大会反省、平成 26 年度大会について）

資料4　平成 25 年度予算（案）→　承認

A：収入の部

1）平成 24 年度繰越金	2,336,424 円
2）平成 25 年度会費収入（200 名）	1,200,000 円
3）雑収入（預金利子）	200 円
合　計	3,536,624 円

B：支出の部

1）群馬大会：運営費補助	150,000 円
2）理事会費（会議費：200,000 円　交通費：200,000 円）	400,000 円
3）テキスト編集委員会費	300,000 円
4）通信費	200,000 円
5）印刷費：学会誌・会報	600,000 円
6）事務費（消耗品費・会費払込手数料他）	100,000 円
7）予備費	1,786,624 円
合　計	3,536,624 円

資料5　全国大学書道学会 役員一覧（平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月まで）（案）→　承認

＊印は新任

参　与　加藤　達成　　吉田　　繁　　城所　　正　　＊前田舜次郎　　＊野中　浩俊

会　長　＊平形　精一（常葉大学）

副 会 長　竹之内裕章（佐賀大学名誉教授）

理 事 長　＊横田　恭三（跡見学園女子大学）

副理事長

常任理事

鈴木　晴彦（日本大学）	[学会誌編集担当]
小川　博章（淑徳大学）	[学会誌編集担当]
＊永由　徳夫（群馬大学）	＊平成 26 年 3 月、理事（地区担当）より異動
柿木原くみ（相模女子大学）	[事務局・会計担当]
石井　　健（東京学芸大学）	[事務局・庶務担当]

理　　事（地区担当）　＊各地区原則 2 名

［北海道］　辻井　義昭（北海道教育大学名誉教授）

須田　義樹（北海道教育大学）

［東　北］　玉澤　友基（岩手大学）
［北　陸］　押木　秀樹（上越教育大学）
　　角田　勝久（新潟大学）
［関　東］　森岡　　隆（筑波大学）
［東　海］　木村　博昭（愛知教育大学）
　　中根　安治（岐阜女子大学）
［近　畿］　萱　のり子（大阪教育大学）
　　岡田　直樹（京都教育大学）
［中　国］　＊住川　英明（鳥取大学）
　　谷口　邦彦（安田女子大学）
［四　国］　東　　賢司（愛媛大学）
　　森上　洋光（四国大学）
［九　州］　小原　俊樹（福岡教育大学）
　　神野　雄二（熊本大学）

理　　事（会務担当）　＊若干名
　　杉山　勇人（鎌倉女子大学）
　　見城　正訓（静岡大学）
監　　査　　大橋　修一（埼玉大学）
　　＊計良　裕佳（新潟大学／相模女子大学／大東文化大学）

資料６　書写・書道教育に関する要望書

書写・書道教育に関する要望書

昨今のパソコン等を代表とするIT文化の飛躍的な進化には目を見張るものがあり、まさに人類の英知が結実したものといえるでしょう。一方でこの趨勢が、長い歴史の中で培われた伝統や文化といった、民族各々が大切に保持継承してきた有形、無形の遺産に対する認識と理解を希薄にするのではないかと危惧する声もあります。

現在、日本でもこのような観点から政治、経済、文化を通じ、健全で確固たる国家観を有する国民、特に次世代を担う青少年の育成を重要視すべきであり、教育的措置が図られなければならないと考えます。

こうした中、我が国には最も誇りうるものがあります。それは漢字、仮名（平仮名、片仮名）等を自在に使用し、言語を表記する文化です。このような言語形態と言語表記を有する国は世界のどこにも例を見ることができません。さらに、その表記を担ってきたのが毛筆による我が国の文字文化であり、毛筆文化は単に表記のみならず、美への発展となり、日本文化の象徴的存在といっても過言ではありません。

さて、我が国の書写・書道教育については学習指導要領に目標が示され、達成のための指導内容等が明記されています。その根幹をなす理念として、毛筆教育には伝統的な言語文化に触れたり、毛筆書写することにより文字文化を尊重し、親しむ態度を育成することが掲げられています。さらには静かな環境で筆を持つことによって心を落ち着かせ、集中力を高める効果をもたらすということも事実のようです。

したがってここに、小、中学校国語科書写、特に毛筆書写教育の一層の充実、ならびに高等学校芸術科書道教育に関する要望をいたします。

一、小学校においては、国語科書写教育の一層の充実および硬筆の基礎となる毛筆を第一学年から取り上げ、文字の成り立ちや筆順に触れることなど、毛筆が授業で確実に教えられるよう各学校への指導を徹底していただきたい。
二、中学校においては、国語科書写教育の一層の充実および学習指導要領に示された内容ならびに時間数を確実に実施していただくとともに、とりわけ毛筆による書写の学習等を通じて、我が国の言語文化の豊かさに触れるような実践をするよう各学校へ強く指導していただきたい。
三、高等学校においては、書道教育の一層の充実および我が国の伝統文化の尊重という視点に立って、芸術科書道の科目の増単位を要望するとともに、生涯学習社会における書道教育の一層の充実という観点から各都道府県教育委員会に書道教員の採用拡充を求めていただきたい。

なお教育現場の中では、毛筆の授業にあたり、担当する教員が基礎的な書写技能や指導法に自信が持てず、小学校、中学校において毛筆の書写教育が十分行われていない現状等にかんがみ、現場への具体的な支援および教員養成大学学部での指導等についても格段のご高配を賜りたく存じます。

平成二十五年五月十五日

公益社団法人全日本書道連盟　理事長　樽本　樹邨
公益財団法人全国書美術振興会　会　長　荒船　清彦
　理事長　津金　孝邦
全日本書写書道教育研究会　理事長　長野　秀章
全日本高等学校書道教育研究会　会　長　小林　典彦
　理事長　瀧　俊朗
全国大学書写書道教育学会　理事長　宮澤　正明
全国大学書道学会　理事長　平形　精一

なお、この要望書に賛同するその他の書道関係団体を以下に列記いたします。

一般財団法人毎日書道会　読売書法会　産経国際書会　公益社団法人日本書芸院
全日本書文化振興連盟　全国書道高等学校協議会

文部科学大臣　下村博文　殿

資料７　会員異動

平成 25 年度　《 新入会員 》

吉田　真（全国書写書道教育振興会理事／推薦者：加藤達成）
永由　徳夫（群馬大学准教授）
尾川　明穂（安田女子大学助教）
岡野屋宏一（桐朋女子中・高等学校教諭／推薦者：永由徳夫）
亀田絵里香（実践女子大学・日本大学・埼玉大学非常勤講師）
湯川　恵子（日本放送協会学園講師／推薦者：永由徳夫）
福井　淳哉（帝京大学専任講師）
中村　史朗（滋賀大学教授）

《 新入準会員 》

山下　由季（東京学芸大学大学院修士課程／推薦者：橋本栄一）
廣木　知佳（新潟大学大学院修士課程／推薦者：鶴田一雄）
八尋　友惟（東京学芸大学大学院修士課程／推薦者：橋本栄一）
武井　彩香（群馬大学大学院修士課程／推薦者：永由徳夫）
阿部　啓隆（帝京大学大学院修士課程／推薦者：福井淳哉）
高橋　由樹（帝京大学大学院修士課程／推薦者：福井淳哉）
名取　誠純（帝京大学大学院修士課程／推薦者：福井淳哉）
大平　竜也（帝京大学大学院修士課程／推薦者：福井淳哉）
河島　由弥（帝京大学大学院修士課程／推薦者：福井淳哉）
鳥本　淳平（滋賀大学大学院修士課程／推薦者：中村史朗）

平成 24 年度　《 退会者 》

新井　和徳　石田　真弓　海野　正治　北川有岐子　木本　滋久　中澤　功　西口　雅子
萩　信雄　牧　愛子　松清　秀一　村井　清志　吉澤　龍二　渡辺富美雄

資料８　全国大学書道学会規約　→掲載省略　学会誌『大学書道研究』巻末をご参照ください。

平成二十五年度 全国大学書道学会会員書作展

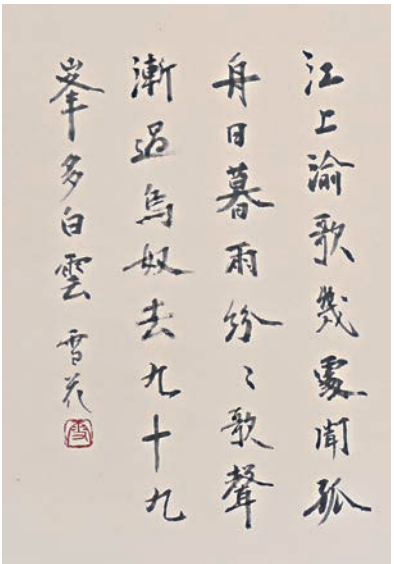
会期　平成二十五年十月四日（金）～六日（日）

会場　群馬大学教育学部

手鑑「群僊閣」
外題　会長　野中吟雪
内題　理事長　平形精逸

1　華　青山浩之（横浜国立大学）

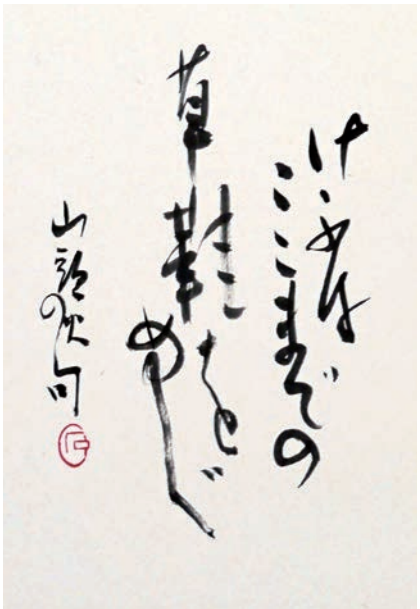
2　廣元舟中聞櫂歌　青木雪花（武蔵野大学）



3　三極　青木雪峰（常葉大学）

4　恕　五十嵐ももこ（都立荻窪高等学校）

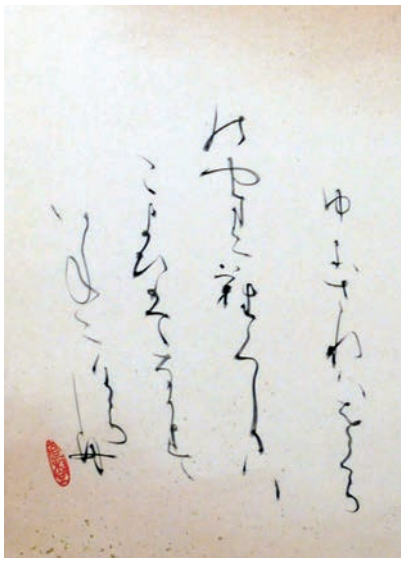
5　種田山頭火の句　石井健（東京学芸大学）



6 **ハングル版本体「墨縁」** 太田仙鳩（四国大学）

7 **おもかげ** 大野幸子（桜蔭中・高等学校）

8 **彬** 大橋修一（埼玉大学）



9 **鹿** 岡田直樹（京都教育大学）

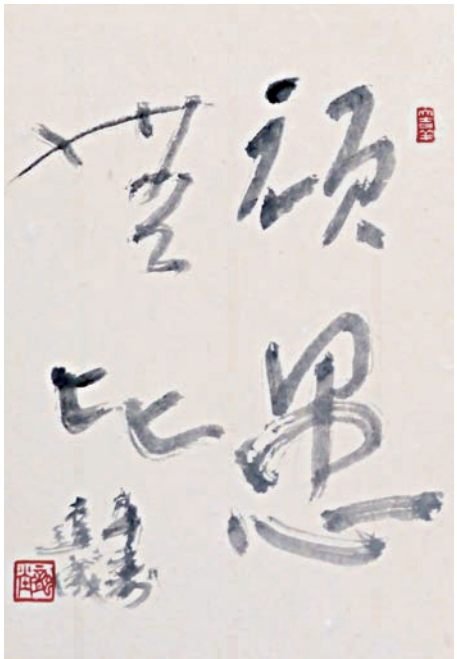
10 **隠逸歌** 小川博章（淑徳大学）

11 **無門** 岡野屋宏一（桐朋女子中・高等学校）

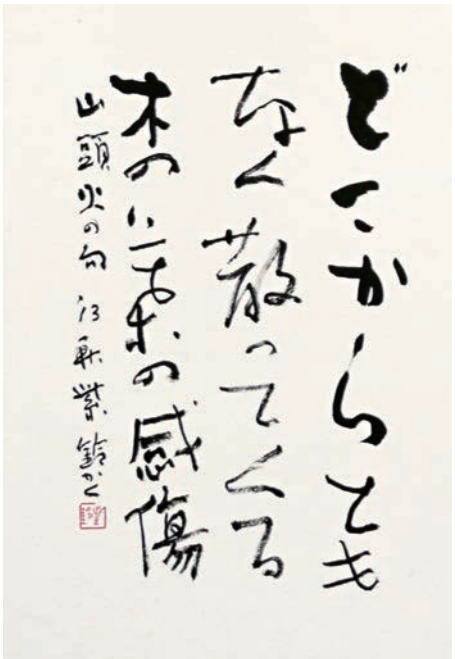
12 よをさゆみ　尾川明穂（安田女子大学）

15『老子』より　加藤堆繋（東京学芸大学）

13 凝神　押木秀樹（上越教育大学）

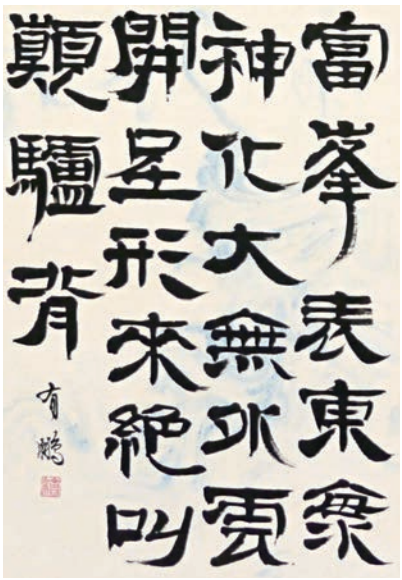


16 頑愚無比（良寛句）　加藤達成（元・群馬大学）



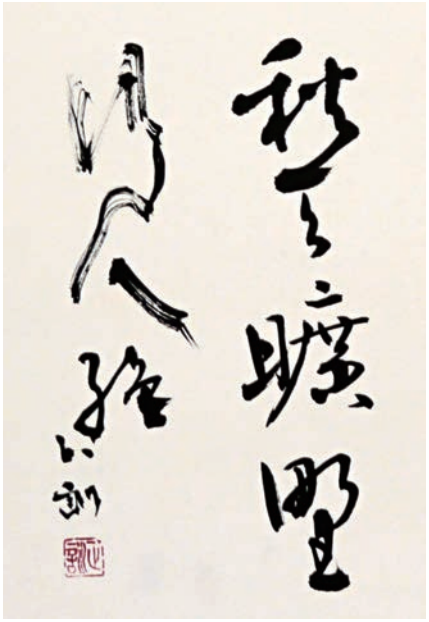
14 山頭火の句　柿木原紫鈴（相模女子大学）

17 花影　加藤東陽（和洋女子大学）



18 亀田鵬齋詩　望富嶽　亀田有鵬（実践女子大学）

19 秋山清「白い花」より　熊坂大地（巣鴨中・高等学校）

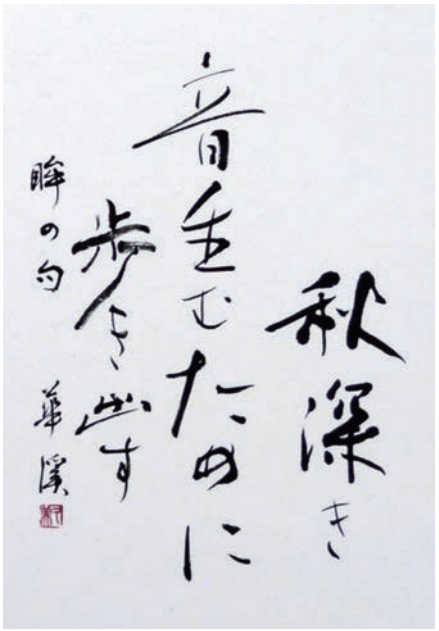


20 七字句　見城正訓（静岡大学）

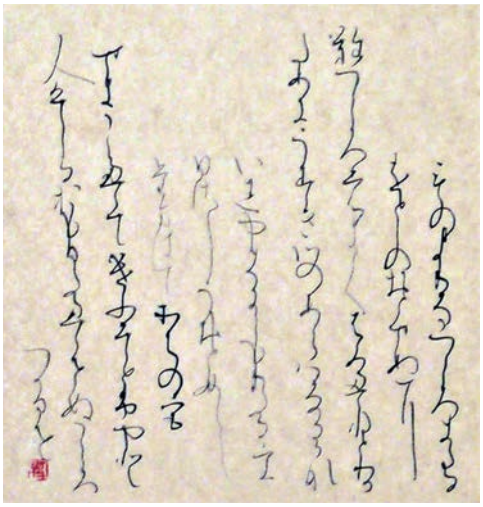
21 書譜語　小西斗虹（香川大学）

22 **壽康**　小林比出代（信州大学）

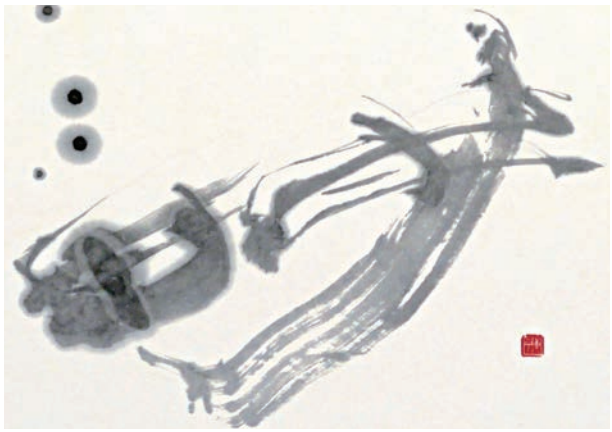
24 **上善如水**　渋谷美登里（元・静岡大学）



23 **眸の句**　齋木華溪（茨城大学）

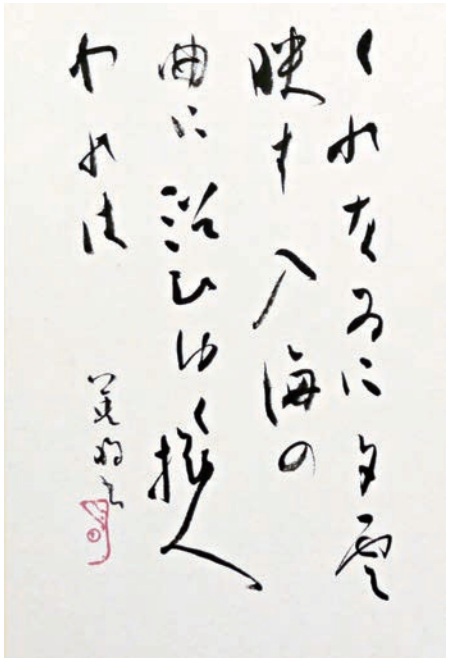


25 **和泉式部集一節**　清水文博（東京学芸大学）

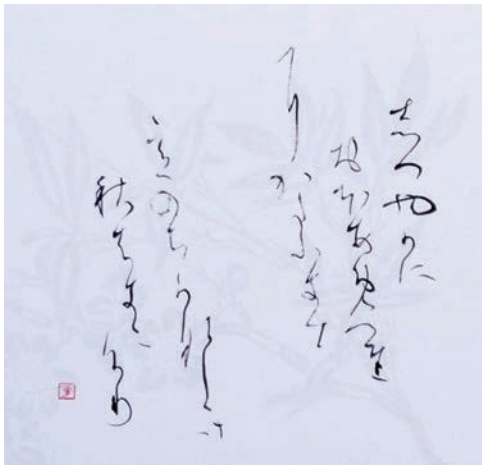


26 **妙**　下田章平（水戸第二高等学校）

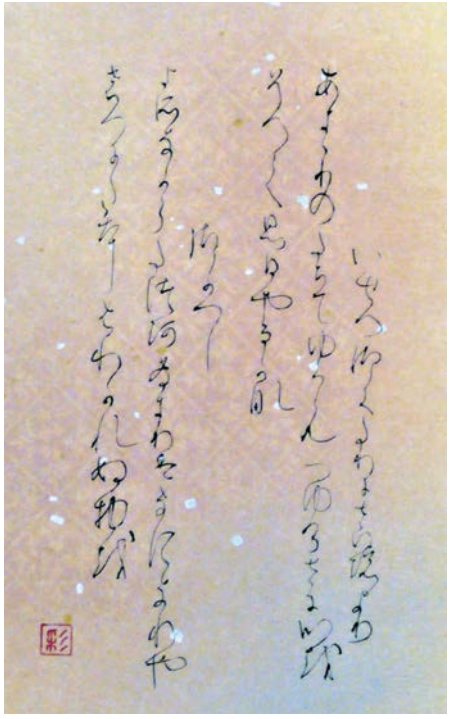
27 MINAMATA　神野大光（熊本大学）



30 吉野秀雄の歌　住川英明（鳥取大学）



28 倣書　本阿弥切　杉浦華桂（二松学舎大学）



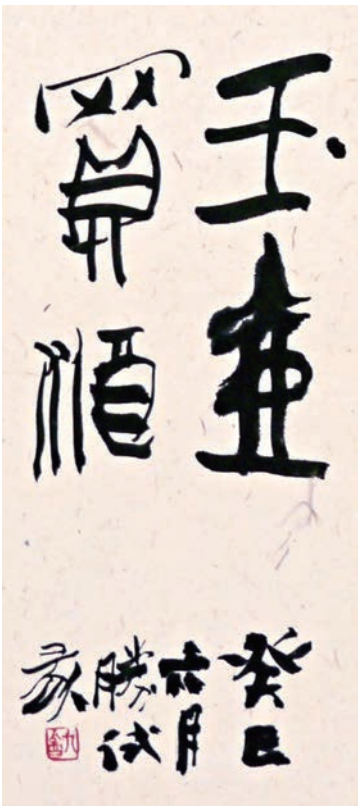
31 小島切　武井彩香（群馬大学大学院）

29 胡蝶之夢　杉山勇人（鎌倉女子大学）

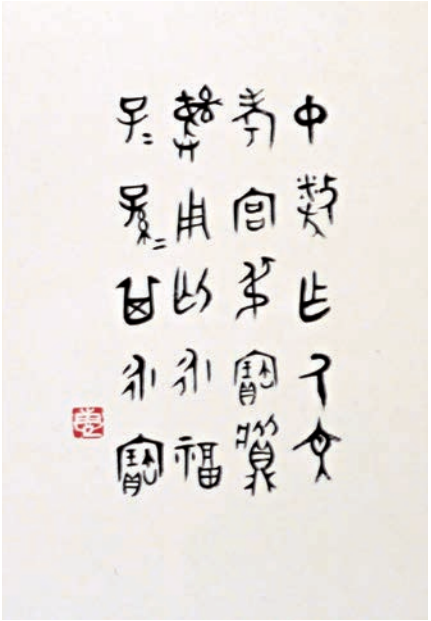
32 **舞**　竹之内幽水（佐賀大学）

33 The Sun and the Moon II　田畑理恵（獨協埼玉高等学校）

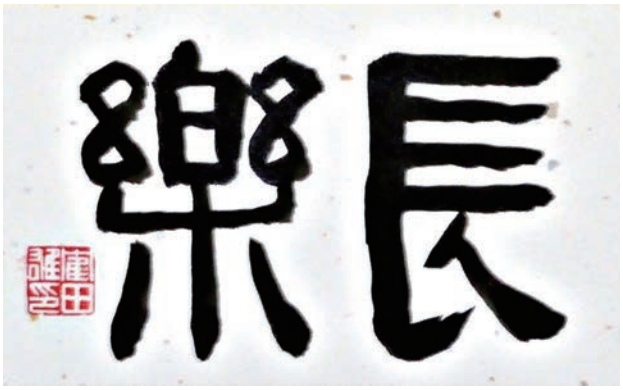
34 **憂欲忽々**　塚本虚齋（和洋女子大学）



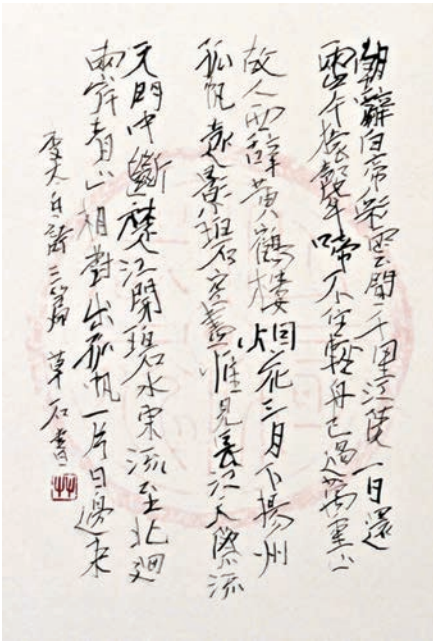
35 **玉壺買酒**　角田勝久（新潟大学）



36 **臨仲敦簋**　津村紫幸（千葉大学）

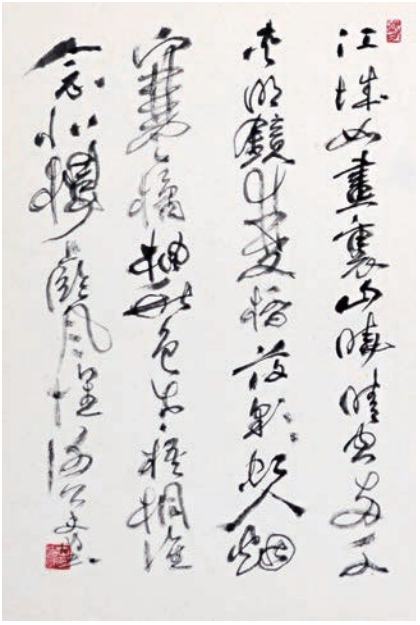


37 長樂　鶴田逸亭（新潟大学）



38 李白の詩三篇　土橋草石（比治山大学）

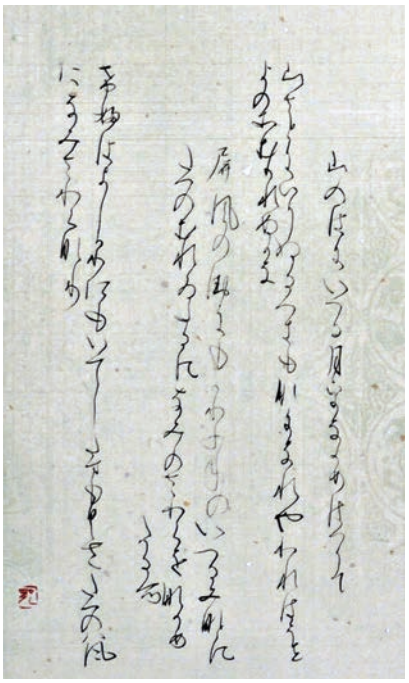
40 夢幻のごとく　豊口和士（文教大学）



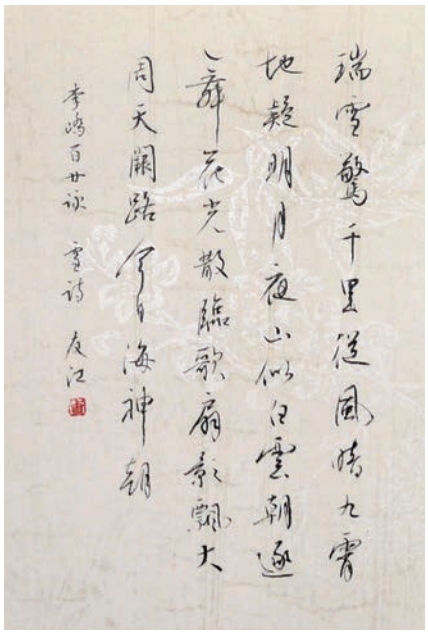
41 秋登宣城謝朓北樓（李白）　中村史朗（滋賀大学）

39 百錬剛　飛田羽吉（水戸南高等学校）

42 大吉　長野竹軒（東京学芸大学）



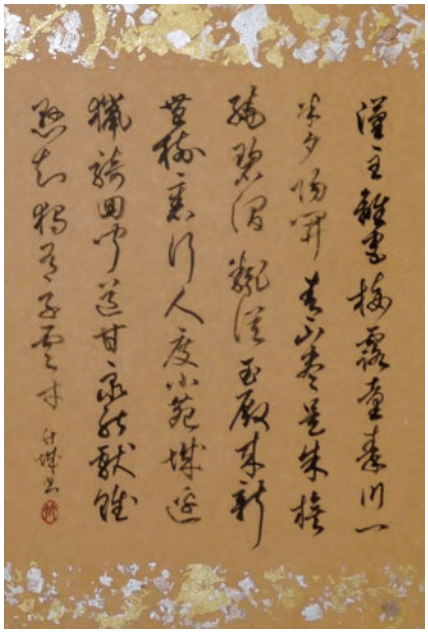
43 針切　永由徳夫（群馬大学）



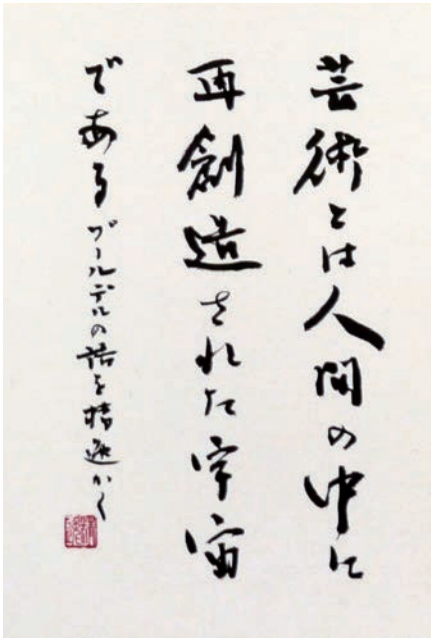
45 李嶠詩　信廣友江（安田女子大学）

46 豊　服部一啓（福岡教育大学）

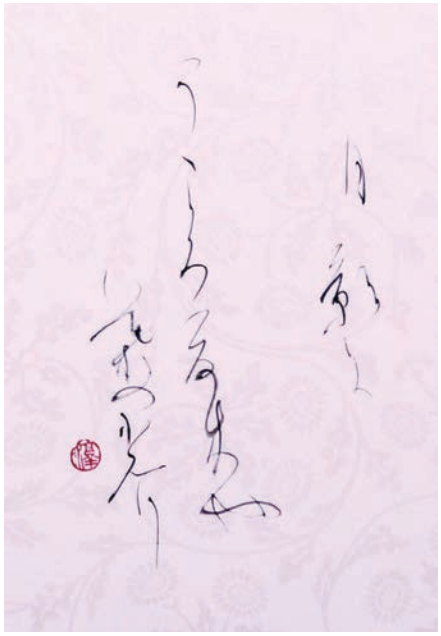
44 祚胤　野中吟雪（岐阜女子大学）



47 王維詩　樋口竹城（千葉大学）

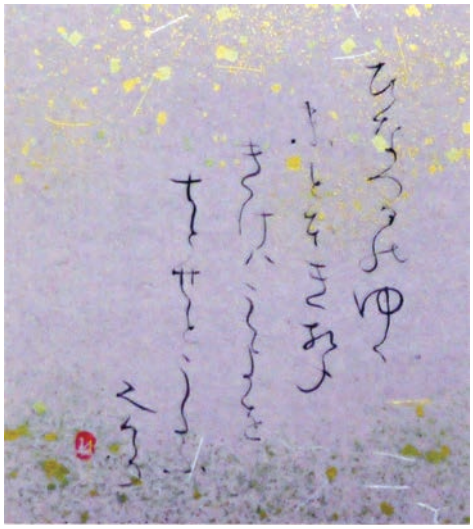


48 ブールデルの語　平形精逸（常葉大学）



51 月影　福井淳哉（帝京大学）

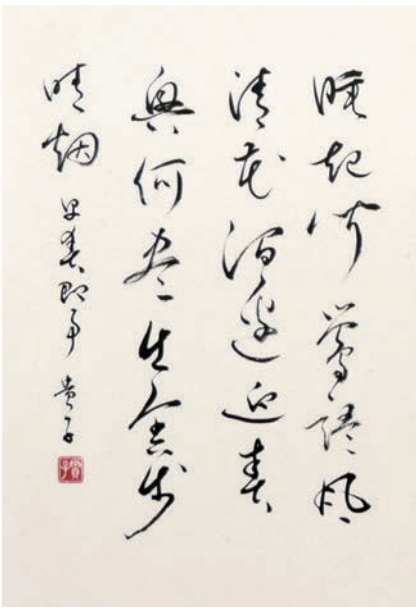
49 眞樂　廣木知佳（新潟大学大学院）



52 蓮月の歌　藤瀬礼子（了徳寺大学）

50 白雪富嶽　廣瀬舟雲（武蔵野大学）

53 大宮人　藤田朱雀（武庫川女子大学）



56 早春即時（自詠）　松本貴子（大東文化大学）

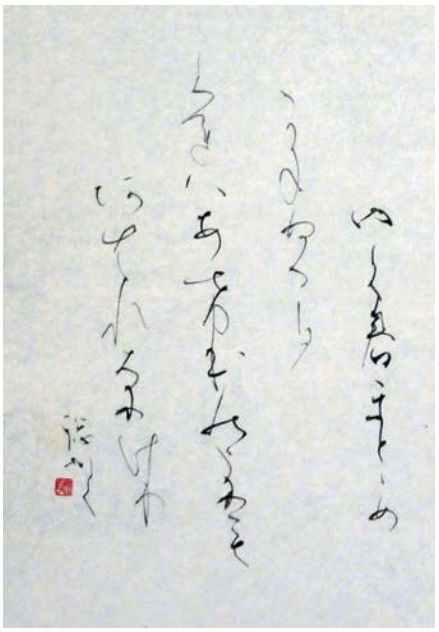
54 爽　本田容子（盛岡大学）

57 草津節　宮澤正明（山梨大学）

55 慶雲　増田与久（浜松学芸高等学校）

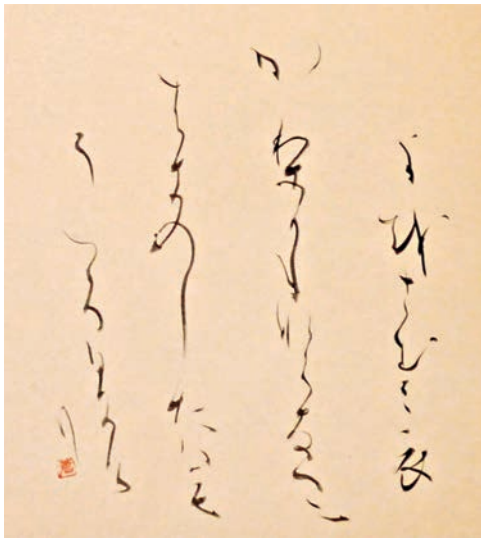
58 寛仁　森哲之（広島文教女子大学）

59 **蒼梧** 森上洋光（四国大学）



62 **夕ぐれ** 湯澤聡（安田女子大学）

60 **秋の風景** 山下由季（東京学芸大学大学院）

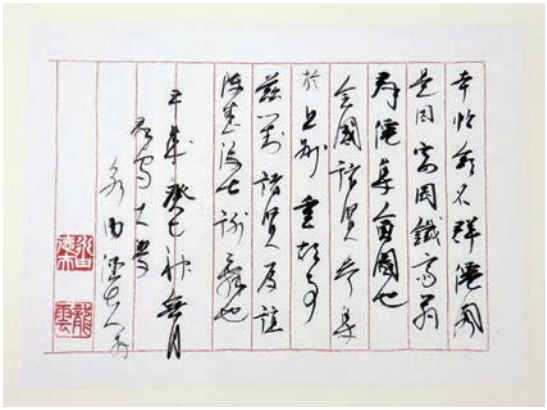


63 **夜をさむみ** 和田蒼龍（東京大学）

61 **貫之の歌** 湯川三壽（日本放送協会学園）

64 **古** 横田閑雲（跡見学園女子大学）

展示風景



跋　永由徳夫（開催校代表）

外箱と外観

群馬大会：集合記念写真（於三学会合同懇親会）

平成二十五年度 全国大学書道学会 会員・準会員一覧

相川 匡也　栃木県
青木 馨子　東京都　武蔵野大学
青木 悟　静岡県　静岡大学
青木 辰樹　埼玉県　県立大宮光陵高等学校
青戸 貴子　鳥取県　米子市立美術館
青山 浩之　神奈川県　横浜国立大学
赤江 貞夫　大阪府
赤岸 恵　神奈川県　大原簿記専門学校
赤平 和順　東京都　大正大学
浅川 学　山梨県　県公立中学校
東 國恵　徳島県　徳島大学名誉教授
阿部 啓隆　東京都　帝京大学大学院
荒井 一浩　東京都　東京学芸大学附属高等学校
荒金 治　大分県　別府大学
五十嵐康子　神奈川県　麻布学園
五十嵐ももこ　神奈川県　都立荻窪高等学校
井川恵津子　福岡県　福岡教育大学大学院修士課程
池田 孝一　千葉県　志学館中学校
池田 利廣　大阪府　大阪教育大学
池田 史子　広島県　安田女子大学名誉教授
井澤 秀彦　東京都　恵泉女学園大学
石井 健　埼玉県　東京学芸大学
板橋 聡美　東京都　昭和女子大学
伊藤 忠綱　千葉県　明星大学／日本大学
伊豆名皓美　新潟県　新潟大学大学院
犬塚絵美理　静岡県
井上 悠　東京都　武蔵野大学大学院
打越 華衣　茨城県　県立土浦第二高等学校
海野 陽子　埼玉県　星野学園小学校
浦野 俊則　埼玉県　植草学園大学
大柄みや子　東京都　横浜国立大学大学院修士課程
大木亜希子　京都府
太田 剛　徳島県　四国大学
太田 知美　北海道　北海道清田高等学校
大滝 英輔　東京都　淑徳大学
大野 幸子　埼玉県
大橋 修一　埼玉県　埼玉大学
大平 竜也　東京都　帝京大学大学院

大森アユミ　長崎県　長崎大学
岡田 直樹　京都府　京都教育大学
岡田 薪子　兵庫県　武庫川女子大学
岡崎 忍　岡山県　相模女子大学中学部
岡野屋宏一　東京都　桐朋女子中・高等学校
岡村 浩　新潟県　新潟大学
岡本 直人　神奈川県
尾川 明穂　広島県　安田女子大学
小川 崇　埼玉県　県立豊岡高等学校
小川 貴史　新潟県　県立新潟高等学校
小川 博章　東京都　淑徳大学
奥原 悠斗　東京都　横浜国立大学大学院修士課程
小倉菊太郎　山口県　山口大学
小黒 哲也　新潟県
小口かおり　東京都　十文字学園女子大学
小澤 恵　神奈川県
押木 秀樹　新潟県　上越教育大学
落石 園美　東京都
小原 俊樹　福岡県　福岡教育大学
柿木原くみ　東京都　相模女子大学
風岡 正明　愛知県　愛知教育大学
勝又 奈緒　神奈川県
勝目 浩司　福岡県　九州造形短期大学
加藤亜希子　新潟県　県立万代高等学校
加藤 達成　京都府　佛教大学
加藤 泰弘　東京都　女子美術大学
加藤 祐司　東京都　東京学芸大学
金子 馨　埼玉県　東京学芸大学名誉教授
金田 充康　東京都　日本大学
亀石 二三　大阪府
亀田絵里香　徳島県　四国大学
嘉屋 孝彦　埼玉県　実践女子大学・日本大学・埼玉大学
萱 のり子　広島県　県立井口高等学校
萱原 晋　奈良県　大阪教育大学
河合廣太郎　東京都　カリタス女子短期大学
河合 仁　埼玉県　ＮＨＫ学園高等学校
河島 由弥　東京都　東京学芸大学
川原 淳　神奈川県　日本大学
東京都　帝京大学大学院

岸野 大　広島県　県立尾道北高等学校
北畠 康成　大阪府　清明学院高等学校
木寺 将大　福岡県　福岡教育大学大学院修士課程
衣川 彰人　愛知県　横浜国立大学名誉教授
木村 博昭　愛知県　愛知教育大学
草津 祐介　東京都　都留文科大学
九澤 亮子　富山県　県立新湊高等学校
久多見 健　熊本県　尚絅大学
沓名健一郎　愛知県　名古屋市立大学
熊川 南　福岡県　福岡教育大学大学院修士課程
熊坂 尚史　東京都　巣鴨中・高等学校
倉本 優子　福岡県　福岡女子短期大学
黒田 悟史　埼玉県
黒田 忠志　広島県　ノートルダム清心女子大学
黒丸 寛子　埼玉県
計良 裕佳　群馬県　相模女子大学
見城 正訓　静岡県　静岡大学
高口 盛幸　福岡県　学校法人祐誠高等学校
小浦 直人　福岡県
小竹 正高　岡山県　岡山明誠学院高等学校
小西 憲一　香川県　香川大学
小浜 大明　長野県　信州豊南短期大学
小林 圭　茨城県　茨城町立梅香中学校
小林比出代　長野県　信州大学
小林 由佳　栃木県
小林留美子　福井県　県立丹生高等学校
込谷 陽壱　東京都
近藤 和馬　新潟県
齋木 久美　千葉県　茨城大学
齋藤 英男　埼玉県　横浜国立大学大学院修士課程
齋藤 之孝　神奈川県
坂井 昭彦　新潟県
坂井 孝次　福岡県　福岡教育大学
佐々木佑記　東京都　台東区立書道博物館
佐藤 英樹　千葉県　早稲田大学高等学院
塩出智代美　広島県　安田女子大学
塩野入みどり　長野県
重友 克夫　東京都　武蔵野大学大学院
小竹 光夫　兵庫県　兵庫教育大学
渋谷みどり　静岡県　静岡大学大学院
清水 文博　東京都　東京学芸大学

下田 章平　茨城県　水戸第二高等学校
下田真奈美　宮城県　宮城教育大学
白石 一貴　新潟県　新潟大学大学院
白鳥ゆう子　神奈川県　立正大学
城間 圭太　東京都　都立大島海洋国際高等学校
進士さき子　東京都　東京学芸大学大学院修士課程
神野 雄二　熊本県　熊本大学
水田至摩子　埼玉県　畠山記念館
杉浦 妙子　東京都　二松学舎大学
杉崎 哲子　静岡県　静岡大学
杉山 勇人　神奈川県　鎌倉女子大学
鈴木かおる　神奈川県　東京家政学院大学
鈴木 清　奈良県
鈴木 慶子　長崎県　長崎大学
鈴木 晴彦　千葉県　日本大学
須田 義樹　千葉県　了徳寺大学
砂川さつき　北海道　北海道教育大学岩見沢校
住川 英明　福岡県
高木 厚人　鳥取県　鳥取大学
高澤 浩一　千葉県　大東文化大学
鷹啄 知美　埼玉県　二松学舎大学
高橋美穂子　神奈川県　県立伊奈学園総合高等学校
高橋 克匡　岩手県
高橋 由樹　東京都　帝京大学大学院
高柳 幸雄　東京都　二松学舎大学
滝口 雅弘　静岡県
田口尹基子　千葉県　専修大学
武井 彩香　群馬県　群馬大学大学院
竹嶋 秀聡　三重県　県立神戸高等学校
竹之内裕章　佐賀県　佐賀大学
谷口 邦彦　広島県　安田女子大学
田畑 理恵　東京都　獨協埼玉高等学校
玉澤 友基　岩手県　岩手大学
淡海書道文化専門学校　滋賀県
塚本 宏　東京都　和洋女子大学名誉教授
辻 尚子　徳島県　四国大学
辻井 義昭　北海道　北海道教育大学名誉教授
土田 奈美　新潟県　新潟大学大学院
角田 勝久　新潟県　新潟大学
津村 幸恵　千葉県　千葉大学
徳泉 さち　埼玉県　早稲田大学大学院

徳廣　彩佳	福岡県	福岡教育大学大学院修士課程
利光亜希子	福岡県	県立博多青松高等学校
土橋　幸正	広島県	比治山大学
飛田　博昭	茨城県	県立水戸南高等学
登丸　昌子	神奈川県	横浜国立大学大学院修士課程
富久　和代	徳島県	四国大学
豊口　和士	神奈川県	文教大学
豊島　嘉穂	福岡県	四国大学
豊田　宗児	奈良県	奈良教育大学
鳥本　純平	京都府	滋賀大学大学院
直井　　誠	千葉県	
仲川　恭司	埼玉県	専修大学
中川　寿郎	兵庫県	四天王寺国際仏教大学
中島　好治	熊本県	県立牛深高等学校
中根　安治	愛知県	岐阜女子大学
中村　史朗	京都府	滋賀大学大学院
中元　雅昭	東京都	日本大学
長沼　雅彦	秋田県	秋田大学
長尾　秀則	京都府	仏教大学
長野　秀章	東京都	東京学芸大学
永由　徳夫	東京都	群馬大学
名取　誠純	東京都	帝京大学大学院
名部　勝美	滋賀県	淡海書道文化専門学校
成瀬　靖子	東京都	都立杉並高等学校
西川　竜矢	北海道	松前高等学校
西橋　靖雄	奈良県	大阪教育大学名誉教授
西山　明美	兵庫県	武庫川女子大学
仁田幸一郎	東京都	
野中　浩俊	新潟県	
信廣　友江	広島県	安田女子大学
橋本　栄一	埼玉県	東京学芸大学
蓮見　行廣	東京都	東洋大学
長谷川千恵子	神奈川県	県立茅ヶ崎高等学校
長谷川昌弘	愛知県	愛知学院大学
波多野彩佳	新潟県	
服部　一啓	福岡県	福岡教育大学
濱田　瑞美	神奈川県	早稲田大学
林田俊一郎	熊本県	尚絅大学
樋口　咲子	群馬県	千葉大学
東　　賢司	愛媛県	愛媛大学
日比野貞勝	広島県	広島文教女子大学
平形　精一	静岡県	常葉大学

平田　光彦	岩手県	岩手大学
平原　温子	東京都	
廣木　知佳	新潟県	新潟大学大学院
廣瀬　裕之	東京都	武蔵野大学
弘中　雄太	滋賀県	日本習字教育財団
福井　淳哉	東京都	帝京大学
福島　一浩	東京都	二松学舎大学
福島　　肇	千葉県	和洋女子大学名誉教授
福田　紗季	新潟県	新潟大学大学院修士課程
福光　佐今	大阪府	奈良教育大学
福元　隆寛	福岡県	福岡教育大学大学院修士課程
藤瀬　礼子	千葉県	了徳寺大学
平馬季三代	新潟県	
細谷　恵志	千葉県	了徳寺大学
本多　和宏	千葉県	県立四街道高等学校
本田　容子	岩手県	盛岡大学
前田舜次郎	東京都	元跡見学園女子大学
幕田　　隆	千葉県	千葉大学
増田　与久	静岡県	浜松学芸高等学校
松浦　　貢	埼玉県	東洋大学
松尾　　治	埼玉県	県立羽生高等学校
松尾　志穂	長崎県	
松永　恵子	静岡県	
松本　貴子	千葉県	大東文化大学
松本　仁志	広島県	広島大学
丸山　果織	兵庫県	立命館大学大学院
圓山　由香	神奈川県	県立久里浜高等学校
蓑毛　政雄	徳島県	四国大学
宮澤　正明	山梨県	山梨大学
宮村　　弦	静岡県	
宮脇　玄徳	北海道	札幌龍谷学園高等学校
村山　昌央	北海道	北海道教育大学釧路校
森　　常雄	茨城県	茨城大学
森　　哲之	広島県	広島文教女子大学
森岡　　隆	茨城県	筑波大学
森上　洋光	徳島県	四国大学
森下　　弘	広島県	安田女子大学
守田　　晃	静岡県	県立北筑高等学校
森山　華那	福岡県	
森山　秀吉	熊本県	熊本県立大学／尚絅大学
安　　裕明	茨城県	茨城大学
安原　亜悠	岡山県	

柳田さやか	神奈川県	畠山記念館
矢原　徳子	広島県	尾道大学
八尋　友惟	東京都	東京学芸大学大学院
山内　常正	静岡県	静岡大学
山崎真由美	東京都	都立新宿高等学校
山下　由季	東京都	東京学芸大学大学院
山本　　彩	広島県	筆の里工房
山本　　興	島根県	県立松江農林高等学校
山本　祐司	愛知県	安城学園高等学校
湯川　恵子	千葉県	日本放送協会学園
湯澤　　聡	広島県	安田女子大学
横田　恭三	埼玉県	跡見学園女子大学
吉川美恵子	奈良県	奈良教育大学
吉澤　義和	埼玉県	文教大学
吉田　　繁	埼玉県	東京学芸大学名誉教授
吉田　　真	東京都	全国書写書道教育振興会
和田　圭壮	福岡県	福岡教育大学
和田　幸大	東京都	東京大学史料編纂所
渡瀬　　仁	静岡県	

平成二十五年十月一日現在

＊氏名を五十音順に配列し、居住地の都道府県名、所属を記しました。所属について、変更の申し出がないものについては昨年度の一覧に掲載したものをそのまま掲載しています。

＊氏名、都道府県、所属に変更あるいは誤りがある場合、記載漏れがある場合は事務局庶務担当まで文書でお知らせください。

＊現在、大会案内、学会誌、会報等はヤマト運輸のメール便で送付しています。住所を変更された場合、転送されませんので、住所変更・転居の場合は、新たな住所・転居先を速やかに事務局庶務担当宛文書でお知らせください。正確・迅速な発送を期すために皆様のご協力をお願いいたします。

新入会員推薦のお願いならびに入会申し込みについて

会員の皆様から、新入会員（準会員）をご推薦いただき、本会の一層の充実を図りたいと考えております。会報の最終ページの申込書をコピーの上、お申し込みいただきたくお願い申し上げます。

〈入会手続き〉

＊「新入会員用会員原票（入会申込書）」に必要事項を記入の上、**事務局・会計担当（下記所在地）まで郵送または FAX（042－743－4717）**してください。
＊ 新入会員用会員原票（入会申込書）の受領ならびに入会年度年会費の払い込みを確認した後、常任理事会の承認を経て、総会で新入会員（準会員）の報告をいたします。
＊ 年会費は、会員 6,000 円、準会員 5,000 円です。なお、大学院生（準会員）は、大学院修了後は、会員の資格として扱います。
＊ 送金は、事務局・会計担当まで郵便振替払込用紙（赤色用紙）をご請求いただき、郵便振替にてお願いいたします。（用紙の通信欄に、「新入会員入会年度年会費」もしくは「新入準会員入会年度年会費」と明記してください。）
＊ 払込先は下記の通りです。

■ 口座番号　00110－9－613810　　■ 加入者名　全国大学書道学会

〈事務局・会計担当〉　〒252-0383　神奈川県相模原市南区文京 2－1－1
TEL　042－749－1405
相模女子大学学芸学部　柿木原研究室内　全国大学書道学会事務局（会計担当）

全国大学書道学会新入会員（準会員）用会員票　入会申込書

どちらかに○〔　会員・準会員　〕　　申込年月日　平成　　年　　月　　日

郵便番号　〒　　－	
住　所（自宅）	
帰省先（大学院生のみ記入）　〒　　－	
ふりがな 氏　名　　雅号	
電話（自宅）　　（　　）	
FAX（自宅）　　（　　）	
e-mail 自宅・勤務先	
所属機関	名　称
	会　員：名誉教授　教授　准教授　講師　助教　助手　非常勤講師　教諭 その他（　　） 準会員：大学院　博士課程　修士課程
所在地（所属機関）　〒　　－	
電話（所属機関）　　（　　）	
FAX（所属機関）　　（　　）	
推薦者（会員）氏名	
推薦理由 本会規約第２条に定めた資格（国公私立大学・短期大学・付属学校・専門学校の書道担当教員、及び元会員）に該当する方は、推薦者及び推薦理由の記入は不要です。	

＊ ご記入いただいた住所・氏名等の情報は、本学会事務のために利用し、そのほかの目的では利用しません。

事務局［会計担当］相模女子大学 柿木原くみ 宛　郵送・FAX 願います。

送付先　〒 252-0383　神奈川県相模原市南区文京 2－1－1
FAX　042－743－4717
相模女子大学学芸学部　柿木原研究室内　全国大学書道学会事務局（会計担当）